

日刊サンが選ぶ 2023年 JAPAN 10大ニュース

1 日本代表が14年ぶりにWBC優勝



ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)の決勝戦が3月、アメリカ・マイアミで開催され、日本代表「侍ジャパン」が連覇を狙ったアメリカ代表を3-2で破り、今大会7戦全勝で3大会ぶり3度目の優勝を飾った。「二刀流」で活躍した大谷翔平選手が最優秀選手(MVP)に輝き、新戦力のヌートバー選手の活躍にも注目が集まった。



2023 ワールド・ベースボール・クラシック 優勝トロフィー

2 新型コロナが5類に移行しインフル同等扱いに

2020年1月に国内で感染者が確認されてから約3年4か月が過ぎた5月8日、新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられた。政府と地方自治体による様々な行動制限がなくなり、コロナ対応は平時の体制に移行した。

3 広島でG7サミット開催

5月19日から3日間にわたり先進7か国首脳会議(G7サミット)が広島市で開催。ロシアとの紛争が続くウクライナのゼレンスキー大統領が訪問したことも注目を集めた。またG7首脳が平和祈念資料館を初めてそって訪問するなどの成果もあった。

4 東電福島第1原発で処理水の海洋放出開始

8月24日、東京電力は福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出を開始した。処理水を大量の海水で薄めてトリチウム濃度を国の排出基準の40分の1である1リットル当たり1500ベクレル未満にし、原発から約1キロ沖合の海底トンネルの先から放出を行う。放出期間は30年に及び見通しで、2041~51年に同原発の廃炉を目指す。これに中国が反発して水産物の輸入禁止措置を取り、10月にはロシアもこれに続いた。

5 ビッグモーター不正請求で全国34店舗に立ち入り検査

中古車販売大手のビッグモーター社で、利用者の車を故意に傷つけ、修理代を水増し請求する自動車保険の不正請求問題が発覚した。兼重宏行氏が社長を辞任、国土交通省が立ち入り検査を行い、金融庁が保険代理店登録を取り消すなど問題が広がった。

6 夏の平均気温が観測史上最高に

気象庁によると、2023年6月から8月の日本の平均気温は、1898年の統計開始から最も高いものとなった。最高気温が35度以上の猛暑日の日数は全国38カ所で最多となり、過去151年間で猛暑日が一度もなかった北海道函館市で猛暑日が初めて記録された。

7 将棋の藤井聡太竜王が史上初の八冠達成

10月11日、将棋の第71期王座戦五番勝負の第4局が行われ、挑戦者の藤井聡太竜王が永瀬拓矢王座に138手で勝ち、シリーズ3勝1敗で王座を奪取。21歳2か月で史上初の八冠独占を達成した。なお、将棋のタイトルは2017年に叡王戦が加わり8つとなったが、それ以前は羽生善治九段が1996年に当時の全タイトルである七冠を達成している。



SHOTAMATSUI - 龍王 - 37, CC BY 4.0 <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/> via Wikimedia Commons

8 ジャニーズ前社長の長期の性加害を認め現社長辞任

ジャニーズ事務所の創業者であり前社長ジャニー喜多川氏の所属タレントの少年への性加害問題が明らかになり、大きな波紋を呼んだ。現社長の辞任、告発者への謝辞中傷が激化し被害者男性の一人が自死、事務所名をSMILE-UPに変更するなど、影響はさらに広がった。

9 LGBT理解増進法が成立

性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律(LGBT理解増進法)が6月16日に国会で成立し、23日に施行された。性的指向および性自認の多様性に寛容な社会の実現を目的とし、これらを理由とする不当な差別はあってはならないとする。なお、理念法であり、罰則は定められていない。

10 消費税のインボイス制度開始

10月よりインボイス(適格請求書)制度がスタート。これまで年間売上高1000万円以下の小規模事業者は消費税の納税を免除されてきたが、以降は課税事業者として登録しなければインボイスを発行できず、取引先の事業者は仕入れ税額控除ができなくなった。

日刊サンが選ぶ 2023年 WORLD 10大ニュース

1 コロナ緊急事態を解除 WHO

世界保健機関(WHO)は5月5日に新型コロナウイルスの「国際的な公衆衛生上の緊急事態」を解除。緊急事態宣言から約3年3か月で「平時」に戻った。新型コロナは2019年12月に中国湖北省武漢市で最初に感染拡大が確認され、2020年1月に世界各地に感染が拡大したことを受け、WHOは同年1月30日に緊急事態宣言を発令した。



2 ツイッターが「X」に青い鳥のマークも変更

ソーシャルメディアのツイッターは、2022年秋にイーロン・マスク氏に買収されて以来、社名やブランド名が「X」に変更されたが、ついに7月23日、象徴的な青い鳥のマークも消滅した。買収以来、度重なる仕様変更や広告収入の減少によって経営が混乱し、利用者からの不満の声も上がっていた。7月にはメタ社の類似サービス「スレッズ」がローンチし、競争も激化した。



Ruben Kiprop Kerio

5 米地銀が破綻、欧州に飛び火

3月10日、カリフォルニア州を拠点に主にスタートアップ企業向け融資を行うシリコンバレー銀行(SVB)が経営破綻した。これにより世界金融市場に混乱が生じ、スイスの金融最大手のUBSが同国2位のクレディ・スイスを買収するなど、欧州にも影響が広がった。



rarraroro / Shutterstock.com

8 ウクライナで露軍占拠の水力発電所ダム決壊

6月6日、ロシアが占拠するウクライナ南部ヘルソン州のカホフカ水力発電所が爆破されダムが決壊、下流域の広範囲の地域が冠水し、死者20人以上、欧州最大規模の貯水池が干上がったことで70万人以上の飲料水に影響が出た。爆破の原因は不明だが、ロシア軍の関与が強く疑われる一方、ロシアはウクライナによる裏工作であると主張した。



Lorna Roberts / Shutterstock.com

7 チャールズ英国王の戴冠式が執行

5月6日、2022年9月に即位したイギリス国王チャールズ3世の戴冠式がロンドンのウェストミンスター寺院で行われた。1000年以上の歴史があるイギリスの戴冠式は、1953年のエリザベス女王以来70年ぶり。イスラム教やヒンズー教など複数の宗教の代表や女性の聖職者らが登場し、多様性や寛容性を反映した式典となった。また、史上初めてテレビ中継されたイギリス国王戴冠式となった。

3 ハマスが対イスラエル作戦を開始 イスラエルがガザに報復

10月7日、パレスチナ・ガザ地区を実効支配する武装組織ハマスが数千発のロケット弾をイスラエルに撃ち込み、南部に侵襲。これにイスラエル軍が応戦し、ガザ地区に激しい空爆と地上侵襲を行い、多数の犠牲者が出ている。

4 トルコ・シリア大地震で5万人以上が死亡

2月6日、トルコ南部でマグニチュード7.8の地震が発生。トルコ南部とシリア北部で多くの建物が損壊し、5万人以上の人命が犠牲となり、被災者は2000万人以上にのぼった。救助隊の派遣など日本からも支援が行われた。

6 トランプ前米大統領、起訴

ドナルド・トランプ前大統領は、2023年複数回にわたり起訴された。不倫の口止め料を巡りビジネス記録を改ざんした疑いや、機密文書の持ち出しに関するもの、議事堂襲撃事件に関わるもの、2020年大統領選挙の結果を確定する連邦議会の妨害、ジョージア州での同選挙結果を覆そうと試みたことに関するものなど。米国の大統領経験者の起訴は初めて。なお2024年の大統領選に出馬する意向で、2023年末時点では共和党の最有力候補となっている。



lev radin / Shutterstock.com

9 タイタニック号見学の潜水艇事故、乗員全員が死亡

北大西洋で沈没したタイタニック号の水中見学ツアーを行っていたオーシャン・ゲート社の潜水艇「タイタン」が消息を絶ち、捜索が行われたが、4日後の6月22日、乗員5人全員が死亡したと発表された。海中から潜水艇の破片が発見され、水圧で押しつぶされたことにより破壊されたことがわかった。

10 アメリカがAIを規制する大統領令を発令

バイデン米大統領は、10月30日、米国で初となる人工知能(AI)に関する法的規制である大統領令を出した。開発企業に対し政府との情報共有を義務付け、AI作成の画像や音声、映像などを利用者が判別できる仕組みの導入などが盛り込まれた。

1 マウイ島ラハイナで大規模な火災が発生

8月8日、ハワイ諸島の南海を通過したハリケーン「ドーラ」の強風により、マウイ島とハワイ島の各地で山火事被害が拡大。特にマウイ島ラハイナでは街の中心部に壊滅的な被害をもたらし、死者数100人以上、建物2000棟以上が損壊した。火災発生時に屋外サイレンが鳴らされなかったことが問題となり、当時のマウイ緊急事態管理局長が辞任し、また州内の危機管理の見直しも行われた。



2 ホノルル鉄道「スカイライン」開通

計画から55年もの歳月を費やしたホノルルの新高架鉄道システム「スカイライン」が、ついに6月30日より運行開始された。今回の開通はイースト・カボレイからハラフまでの11マイル(約17.7km)の線路と9つの駅を含む第1区画で、最初の5日間は無料で市民に開放され、7万1000人以上が乗車した。



3 ハワイ初のアメリカン・アイドルが誕生

5月21日、全米の人気オーディション番組「アメリカン・アイドル」シーズン21の決勝戦が放送され、オアフ島カフク出身で高校生イアン・トンギさん(18歳)が優勝。7月にはノースショアで凱旋パレードやステージイベントが開催され、ハワイ初のアメリカン・アイドルを応援するために多くの人が駆けつけた。

4 過剰摂取の特効薬ナルカンの設置が広がる

合成オピオイドの一種であるフェンタニルの過剰摂取が増加する中、拮抗薬である鼻腔スプレーのナルカンの普及が急激に進められた。4月に州内の公立学校へのナルカン配布がスタートし、7月にホノルル市内にある約850のバー及びナイトクラブでの設置を義務付ける法案が可決した。また8月には自販機での無料配布もスタートした。

5 ハワイアン航空 アラスカ航空に買収、合併

12月3日、アラスカ航空がハワイアン航空を19億ドル(約2800億円:147.4円/ドル換算)で買収することを両社が発表した。買収は12月から18カ月以内に完了の見込みで、統合後の組織はアラスカ航空CEOミニクッチ氏の指揮の下シアトルを拠点とするが、ブランドは別々のまま存続され、ハワイアン航空の路線と便、雇用も引き継がれる予定となっている。

6 登校中の女子学生、ひき逃げで死亡

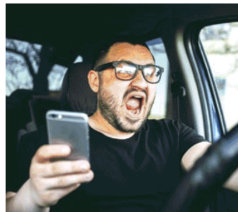
2月15日朝、マッキンリー高校前の歩道にトラックが突っ込み、登校中のサラ・ヤラさん(16歳)が亡くなり、一緒にいた同級生も入院する怪我を負った。運転手は現場から逃走し、翌日逮捕されたが、事故当時は無免許運転であり、164件もの交通違反の検挙歴があることがわかった。事故後、道路にスピードバンプが設置されるなどの対策が取られた。また、容疑者は12月5日に第一級過失致死罪で起訴されている。

7 赤信号カメラが多数の違反を摘発

2022年11月下旬から段階的に設置がスタートした赤信号安全カメラの進捗状況は、3月末の時点で約1800件の違反を摘発するという驚異的な成果を上げた。また、設置から半年後には、赤信号無視の違反者の数が激減。ピコイ・ストリートとサウスベレタニア・ストリーの交差点では、カメラ設置前は1日平均110人の違反者がいたが、設置後は14人に減少した。

8 ハワイのドライバーのマナーが低下

ファースト・インシュランス社の最新調査によると、68%のドライバーが、「過去5年間で、運転マナーの全体的なレベルが低下した」と回答。また、33%が「他のドライバーが車から降りて他のドライバーに抗議しているのを目撃したことがある」と答えるなど、丁寧さやマナーの欠如が浮き彫りとなった。



9 再開発のためアロハ・スタジアムが閉鎖

47年にわたり愛されてきたアロハ・スタジアムが、新しいスタジアム建設と周辺地域の再開発のため、2月25日をもって閉鎖された。最終日はスタジアム全体が一般に開放され、写真撮影や、今まで一般には非公開だったロッカールームなどの見学も行われた。なお、旧スタジアムの取り壊しや新施設建設のスケジュールは未定となっている。

10 中絶の権利と医療従事者を保護する法律が成立

全米のいくつかの州で中絶を違法とする動きが加速する中、ハワイ州では3月22日、中絶の権利および中絶を行う医療従事者を保護する新法が制定された。これにより、ハワイでは州内の住民や医療従事者だけでなく、現在中絶を禁止している州の女性および医療従事者がハワイを訪れる際にも、彼らを保護することが合法化される。

11 新型コロナウイルス 接触通知アプリ終了

連邦政府のCOVID-19公衆衛生緊急事態宣言の終了に伴い、5月11日、ハワイ州公認の無料新型コロナウイルス接触通知システム「アロハセーフ・アラート」アプリの運用が終了した。このアプリは、州保健局が陽性者を確認すると、アプリユーザーに認証コードが送られ、48時間以内に接触の可能性があることを匿名で周囲に通知するものだった。

12 旅行者の車がポートハーバーに突っ込む事故連発

ハワイ島カイリア・コナのホノコハウ・スモールポート・ハーバーで、旅行者の運転するレンタカーが車ごと海に侵入する事故が5月に2件発生した。ドライバーはGPSに従って運転していたところ、ポート用の船台に下りてしまったと見られている。2件とも目撃者に救助され、負傷者は出ていない。

13 ハワイ・ヘラルドとハワイ報知が廃刊

43年間続いた隔月刊のハワイ・ヘラルド紙と、111年の歴史を持つ日本語日刊新聞のハワイ報知紙というハワイの2つの新聞が、12月に廃刊した。以降ハワイ報知社は印刷専業会社として存続していく。



14 ワイキキのホテルで集団薬物接種、死亡

6月4日早朝、ワイキキのホテルの一室で集団による薬物過剰摂取があり、2人死亡、3人が入院する事態となった。現場からフェンタニルが検出されたが、生存者によると別の薬物を使用していたつもりで、フェンタニルが混入していたことを知らなかったという。その後、フェンタニルの入手経路として2名が逮捕された。

15 ホノルル初のピックルボール専用コートがオープン

7月17日、ケエヒ・ラグーン・ビーチパークに、ホノルル市の公共公園で初となる12面のピックルボール専用コートが新設された。ハワイでは近年ピックルボールの人気が高まっており、コート不足が問題となっていた。一方、もともとあったテニスなど別の競技のコートをピックルボール用に変えることに対して反対意見も出ていた。

16 ワイキキのTギャラリア by DFSが再オープン

ワイキキのカラカウア・ストリートにある免税店のTギャラリア・バイ・DFSは、2020年3月に閉店したが、建物のオーナーシップ変更を経て、7月半ばにソフトオープンした。長年にわたり世界中の旅行者から親しまれてきた商業ランドマークが復活し、ワイキキの一等地にさらに活気が戻った。

17 ハワイで卵の価格が急騰

アメリカ本土で高インフレーションが増加したことにより卵の供給量が減り、全国的に卵の価格高騰が続いたが、特にハワイでは値上げ率60%、1月の1ダースの卵の価格は平均9.73ドルにのぼり、一般家庭の家計や飲食産業を苦しめた。

18 ホノルルフェスティバル 4年ぶりに開催

環太平洋とハワイの文化の絆を紹介する人気イベントのホノルルフェスティバルが、3月10日から12日の3日間にわたり行われた。2019年の開催以降はパンデミックにより中止となっていたため、実に4年ぶりの対面での開催となったが、日本からの来場者は通常の3分の1程度に留まった。

19 ココクレーター頂上に新しい展望台が設置

ハワイカイにある人気のハイキングスポットであるココ・クレーターの山頂に新しい展望台が設置された。これまでの金属製の格子状のプラットフォームに替わり、新しい展望台には手すりに囲まれた約71平方フィート(約2坪)の展望スペースがあり、階段でアクセスできるようになっている。

20 キラウエア火山噴火、マグマ噴出で観光が盛況

2023年はキラウエア火山の噴火が活発な一年だった。最初の噴火は1月から3月初旬まで続き、次に6月から1カ月ほど、そして9月に1週間にわたって起こり、その都度、噴火を一目見ようとハワイ火山国立公園に旅行者が殺到し、山頂火口への道には長蛇の列ができた。また、溶岩に放尿する旅行者の写真がソーシャルメディアで炎上する騒ぎも起きた。



Kilauea summit eruption in Halema'uma'u - June 7, 2023